

映画・本・歴史のこと

〈第24回〉インドの映画と推理小説

有田誠(ありたまこと) 京丹波町在住の映画愛好家。
写真はインド映画の撮影風景(1977年ボンベイにて筆者撮影)

ラン人女性が出てきて、雨を眺めていた。乾燥した土地の人には、うっとりする風景なのだろう。頭からつま先まで真っ黒の衣裳(チャドル)

れがラジェシ・カナの撮影現場だった。こちらは歌う主役の周りで、テールについているだけ。あらかじめ録音したふき替え歌手の歌に彼が口を合わせていく。ラジェシ・カナもすっかり年をとった。娘のトウイクル・カナはプロデューサーとして、夫の大スター、アク・シャイクマールとともに、カナダとの合作など

影中に瀕死の重傷を負った。その時、のちに首相となるラジブ・ガンジーは、ワシントンを訪問中だった。彼は急遽、日程を切り上げ、見舞うため帰国したほどである。その作品のビデオをロンドンで見た。事故の瞬間、ストップモーションとなり、「ここで怪我をした」と、字幕が出た。

なった。よほど懲りたのか、すぐに辞めた。七〇年代は、後半になっても、バングラデシュ独立に伴う難民が、カルカッタ(現コルカタ)の路上に溢れていた。難民孤児の男の子と親しくなった。「アミタバ・バチャンの映画に行くか」と誘うと、跳び上がった。喜んだ。

アミタバは政治家を辞め、ビジネスで破産ののち、国民的クイズ番組の司会者で再ブレイクした。

この辺りの事情から作られたのが、イギリス製インド映画『スラムドッグ\$ミリオネア』(二〇〇八ダニー・ボイル監督)である。

二〇〇〇年代に入

ラジェシ・カナ

巻頭の写真は、インドの大スター、ラジェシ・カナ。ジナト・アマンとの共演作『アシク・フン・バハルン・カーン』(一九七七)の撮影風景である。

をまとい、男を警戒していたが、破れたズボンを縫おうとしたら、針と糸を貸してくれた。

ある日、イラン人の映画関係のブローカーがやって来た。外国人のエキストラを集めていると言う。

七〇年代の一番の人気スターはアミタバ・バチャンである。

アミタバは政治家を辞め、ビジネスで破産ののち、国民的クイズ番組の司会者で再ブレイクした。

この辺りの事情から作られたのが、イギリス製インド映画『スラムドッグ\$ミリオネア』(二〇〇八ダニー・ボイル監督)である。

二〇〇〇年代に入

ラジェシ・カナ

ボンベイ(現ムンバイ)の安宿の相部屋でスイス人とすごしていた。文庫本にまでカビの生える八月の雨期雨が降り出すと、隣室のイ

ト作を連発している。『カジュカジュカ』(二〇〇九)

ここでは、親の過剰な期待に押しつぶされそうになり、自殺を試みる(実際、インドの若者の自殺率は世界一になってしまった)学生や、点数がすべての学長、学生が登場する。こうした学歴偏重を映画は軽やかに

『花嫁はどっこい』(二〇一四)

助けられ、夫の迎えを待つ。ジャヤは自分の夫の顔も知らない。大学で農業の勉強をしたいにもかかわらず、奴隷のような結婚を強いられていた。

二〇〇〇年代に入

アミール・カーン

ラジェシ・カナ

ると、同じ一九六五年生まれのアミール・カーン、サルマン・カーン、シャールク・カーンの「三カーン」の時代に入る。

原題は「三人のバカ」。タイトルからして、すでに深刻さを脱力させている。

超エリート工科大学に入學した三人の友情とその数年後をつなぐ歌あり、恋あり、旅行ありの物語アミール・カーンは、深刻化する競争社会の問題を、あくまでも娯楽映画として描いていく。

彼のプロデュース作品。別れた二番目の妻、キラン・ラオが監督している。

アミール・カーンの、俳優として、プロデューサーとしての陽性な才能が全開。これも大ヒット作品である。

二〇〇〇年代に入

アミール・カーン

一九九一年、ラジブ・ガンジー首相が暗殺され、ラオ政権が誕生、親ソ連の社会主義的経済を自由化させた。現在も進行中のグローバリズム国家への転換点となった。

二〇一四年、国民会議派から政権奪取したインド人民党のモディ現首相は、状況をさらに加速させる。日本など外国資本が、銀蠅のようにたかる、大気汚染と社会問題山積みの国に変えてしまった。

テーマは宗教。宇宙船を操縦するペンダントを失くした宇宙人PKが、「神にたのめば願いはかなう」と言われ、ヒンズー教、イスラム教、キリスト教の人たちにてあつていく。ところが、各々の神様が違うので、PKは面食らう。

まだ十代、子供同然のブルは夫に連れられて、彼の村まで汽車で向かっていった。車中で偶然、夫は顔をヴェールでおおった同じ花嫁衣裳のジャヤとブルを取り違えてしまう。いざ村の家族の所に着いて、大騒ぎとなる。

ブルは行先を知らず、途中の駅で途方に暮れる。彼女はしかし、駅のホームで食べ物をおばさんに

二〇〇〇年代に入

アミール・カーン

ラジェシ・カナ

こうした条件下で、アミール・カーンは、政治的、社会的テーマを、笑いと涙の物語に変換し、大ヒッ



カルカッタの小学校の教室(筆者撮影)

「一体、神とはいかなるものか」と観客とともに

ブルは行先を知らず、途中の駅で途方に暮れる。彼女はしかし、駅のホームで食べ物をおばさんに

力である。〈この項、つづく〉

二〇〇〇年代に入

アミール・カーン

ラジェシ・カナ